



道徳だより

令和3年1月14日
府中市立新町小学校
校長 濱田 忠宏

今年度9月に予定していた「道徳授業地区公開講座」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できませんでした。そこで、校内で研修会を実施した上で、12月14日（月）から18日（金）までの1週間を「ふれあい道徳週間」として道徳授業をこれまで以上に学年で工夫し、子供たちと共に「考え・議論する道徳」を進めました。実践の一端を紹介します。

道徳授業の充実に向けて

【道徳教育の目標】

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として
他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳科の目標（特別の教科 道徳）

これまでの道徳授業

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

- 読み物資料の心情理解に終始する授業
- 望ましいと思われること、決まりきったことを言わせたり書かせたりする授業

【道徳的価値】

- ・ よりよく生きるために必要とされるもの
- ・ 人間としての在り方や生き方の礎となるもの

これからの道徳授業

「考える道徳」「議論する道徳」

「多様な価値観を理解する」「価値に向き合う」「自分の問題として問い続ける」道徳授業への転換を図る

「特別の教科 道徳」の授業改善のポイント

- (1) 本時で養いたい道徳性（「判断力」「心情」「実践意欲・態度」）を明確にするために
⇒ 本時の内容項目の重点化を図る（資料の読み返しを極力避け、主発問を吟味する）
- (2) 子供自身が価値と向き合うための展開を工夫するために
⇒ 自分の考えの根拠を基に、立場を明らかにさせるための取組
- (3) 多様な価値観があることを捉えさせるために
⇒ 子供自身が考え表現する 考えを変えることをためらわない
自分も友達も大切にし、議論することに価値を見だし理解し合う
- (4) 自己の生き方についての考えを深めさせるために
⇒ 本時で考えたことを振り返り、自他の変容に気付く

1年生の道徳授業

1年担任

○教材名「これなら できる」 ○価値項目「家族愛， 家庭生活の充実」

○指導の概略

家庭の中で自分にできることを探して取り組む主人公の姿を通して、家族のために何かができたとときの気持ちについて考えさせ、すすんで家の手伝いなどをして家族の役に立とうとする実践意欲と態度を育てる。

○授業を振り返って

児童は、家の仕事は普段は大人がしていることが多いけれど、自分たちができる仕事もたくさんあると気付きました。子供たちは、「明日からゴミ出しをやる。」

「テーブル拭きと箸並べならできそう。」と自ら取り組めることを考えており、次の日には、「早速やったよ。」という報告がありました。すすんで手伝いをすることで、スッキリした、いい気持ちが出た、と役に立つことの大切さを実感することができました。今後も、他教科と関連させながら指導を続けていきます。



2年生の道徳授業

2年担任

○教材名「もうすぐお正月」 ○価値項目「家族愛， 家庭生活の充実」

○指導の概略

正月に向けた掃除の手伝いをする主人公の姿を通して、家族の一人として、どんな気持ちでいることが大切なのかについて考えさせ、すすんで家族の役に立とうとするなど、積極的に関わろうとする実践意欲と態度を育てる。

○授業を振り返って

家族の一員として、どんな気持ちでいることが大切なのかを話し合いました。

「家族にやさしくしたい。」「家族みんな笑顔で過ごしたい。」「自分から手伝いたい。」「家族の役に立ちたい。」「家族が元気でなかったり悩んでいたいたら、声を掛けたい。」「忙しそうな時や困っている時は、助けたい。手伝いたい。」という意見が出ました。家族の一員として、家族を大切に、自分ができることを見つけて実践して行ってほしいと思います。



3年生の道徳授業

3年担任

○教材名「みんながくらしやすい町」 ○価値項目「親切，思いやり」

○指導の概略

誰もが暮らしやすい町にするために、自分ができることを考えさせ、相手の状況に配慮し、自らすすんで親切な行為を行おうという実践意欲と態度を育てる。

○授業を振り返って

「みんなが暮らしやすい町にするために、自分ができること」を話し合いました。「けがをしている人がいたら助け合おう。」「電車に乗るときは、出る人が先に出てから、自分が乗る。できるだけ自分の場所をへらす。」「ゆすり合おう。」「事故にならないように、自分のことも相手のことも気を付けよう。」「自分から親切なことを始めて、親切を広めよう。」という意見が出ました。



友達を思いやる3年生児童の行動に感心させられることがあります。しかし、相手の気持ちに配慮の無い行動を見掛けることもあります。相手を思いやり、自らすすんで親切にする事の大切さに気付いてほしいと思います。

4年生の道徳授業

4年担任

○教材名「生き物と機械」 ○価値項目「生命の尊さ」

○指導の概略

生き物と機械の違いについて考えることを通して、命とはどのようなものか考えさせ、唯一無二の生命を大切にしようとする心情を育てる。

○授業を振り返って

生き物と機械の違いから命の大切さを考えました。命はどんなものなのか自分で考えたり、友達と話し合ったりすることを通して考えを深めることができました。命はこの世でたった一つしかなく、同じものは現れないものであること、命は一度失ったら戻らないこと、命を失ったら周りの人が悲しむ、命は未来へつながっていくことなどに気付くことができました。そのようなかけがえのない命をより一層大切にしようという気持ちが高まりました。



5年生の道徳授業

5年担任

○教材名「マークが伝えるもの」 ○価値項目「親切、思いやり」

○指導の概略

ピクトグラムの意味を知り、その意義について考える主人公の姿を通して、ピクトグラムにはどんな考えや思いが込められているかを考え、相手の置かれている状況を自分に置き換えて想像し、思いやりの心を表そうとする心情を育てる。

○授業を振り返って

ピクトグラムには、どんな考えや思いが込められているのかを話し合いました。子供たちからは「字が読めない小さい子のためにあるのだろうか。」「日本語が分からない外国の人が困らないように作っていると思う。」「ピクトグラムから情報を得た人が喜んでくれたらいいなという思いで作っている。」など、様々な意見が出ました。

授業の最後には、自分たちでオリジナルのピクトグラムを描きました。全ての児童が使う人や見る人のことを考えて作成していました。

今回の学習をきっかけに、相手の状況に合わせた思いやりのある行動をとるためには、どのようにすればよいかを考えてほしいと思います。



6年生の道徳授業

6年担任

○教材名「マザー＝テレサ」 ○価値項目「感動、畏敬の念」

○指導の概略

一人一人に慈愛の手を差し伸べ続けたマザー＝テレサの姿を通して、マザー＝テレサの生き方から何を感じるかについて考え、人間のもつ心の崇高さや偉大さに感動する心情を育てる。

○授業を振り返って

マザー＝テレサの生き方について、一人一人が感じたことを話し合いました。

「亡くなりそうな全く関わりの無い人にまで、手を差し伸べるなんてすごい。」「すごい人だとは思いますが、なかなか真似をすることは難しい。」「だから相手にもされないことが悲しいことという考え方に共感した。」「自分も人を大切に生きていこう。」「といった意見が出ました。これからも様々な人間の心の崇高さや偉大さを知り、感動する心を大切にしていってほしいと思います。

